

## マタイによる福音書1章18-25節 「世界で最初のクリスマス」

世界で最初のクリスマスは、誰にとっても最悪なものでした。特にイエスの父ヨセフにとって、最悪な時でした。そしてヨセフは、クリスマスの場面で一言も話していません。なぜ彼は沈黙していたのでしょうか。

18節「母マリアはヨセフと婚約していたが、二人がまだ一緒にになる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった」とあります。二人はすでに婚姻関係にあると認められていきましたが、一緒に生活していない段階でした。そのような時に、マリアが身ごもつてしまします。しかも「聖霊によって」。にわかには信じられない話です。マリアにとっても信じられないことで、相当悩んだことでしょう。でも、彼女はこのことをヨセフに伝えたのです。それを聞いたヨセフは19節のように、「夫のヨセフは正しい人で、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した」のです。この「正しい人」とは、律法を忠実に守る人という意味です。ヨセフはそのような正しい人でした。だからこそ律法を破ったかもしれない彼女を、表ざたにはしたくなかった。当然のことながら、彼は相当悩んだことでしょう。想像していた新婚生活を送ることはおろか、誰の子かわからない子を妊娠しているマリア。絶望的な思いにさせなったことでしょう。

思いめぐらす前に、主の御使いが現われてくれていたら、ここまでヨセフは悩みませんでした。しかしあえて、この順番。それはきっと、ヨセフにとって思い巡らす時が必要だったからです。こうした思い巡らす時、沈黙の時があったからこそ、その後彼はすぐに主に従うことができたのです。ひとり神の前に立つこと、神様と1対1となって思い巡らす時が必要であり、そのとき、神の御心が明らかにしてくださるのです。「恐れず、妻マリアを迎え入れなさい。」そしてその子は聖霊によって身ごもり、イエスと名付けなさい、と。「イエス」とは、「主は救い」という意味です。この方はご自分の民を罪から救ってくださるお方。あなたを救ってくださる方。神さまのすごいご計画、主が預言者を通して予め語っておられたこと、それが今成就しようとしていたのです。その預言こそが23節です。「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」。「インマヌエル」とは、「神が私たちとともにおられる」という意味です。この「インマヌエル」という言葉は、マタイ福音書28章20節にも出てきます。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」。私達と共にいてくださる神さま、それがマタイによる福音書の伝えたいことでもあるのです。

ヨセフは眠りから覚めると主の御使いが命じたとおりに、彼女を自分の妻として迎え入れました。彼は、妻マリアを疑うことなく、神の約束、インマヌエルの神に信頼しました。彼は、神の救いにすべてをかけて生きたのです。私たちの人生においても、ひとり静かに黙さなければならないときがあります。その時、その静けさの中で、インマヌエルの主が語ってくださいます。クリスマスの時、私たちもまたヨセフのように主の御前で静まり、主の御言葉を聞くよう導かれていきたいのです。そこで「わたしはあなたと共にいる」という御言葉と出会い、そのことばによって慰められ、励まされ、生かされていく。そのようなクリスマスを送らせていただきたいと思うのです。